

令和 4 年度 学校評価報告書

園 名	小 野 幼 稚 園
-----	-----------

1 教育目標

<ul style="list-style-type: none">・よく考え、やりぬく子ども・みんなとなかよくあそぶ子ども・心豊かな子ども
--

2 重点目標

「主体的に遊ぶ中で、自ら学ぼうとする力を育てる」 ～試行錯誤しながら学び合う姿を支える教師の援助を考える～
--

3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策
教育課程	学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実 ・幼児が自ら考え、手段を選び、目的をもって遊び込むための援助や環境構成の工夫。 ・一人一人の育ちや課題の共通理解と、連携しあった保育の工夫。 ・少人数保育の課題を踏まえ、個々の育ちを保障していくための工夫。	・教師の立ち位置を『隣に寄り添う』ところから、少しずつ後ろに下がり、幼児を信じて『見守り』ながら、幼児同士の関係性を深めていく。 ・幼児が友達と一緒に思いを通わせて遊ぶ姿を捉え、内面を探りながら見守り、時に向きあっていく。 ・相手の思いを尊重する姿を大切にしながら、同時に自分の思いをしっかりと発信していこうとする意欲を育てる。
子育て支援	親と子の育ちの場としての役割や機能の充実 ・子ども同士、親子、親同士が交流できる場、隣接する校区や市内の親子が交流できる機会の計画と推進。 ・子育て不安の解消と、親子ともども元気に過ごせるような地域ネットワークづくりの推進。	・親子、親同士、子同士がふれあいながら、ゆったりと遊べる時間と空間を確保する。 ・子育てに悩み、不安を抱えておられる方がないか気を配り、子育て支援についての情報を積極的に発信していく。 ・地域内の乳幼児数が減少している状況の中で、子育て支援事業の対象年齢を低年齢からにするなど、多くの方が参加しやすいよう工夫して計画する。
異校種間連携	学校園所連携の推進 ・保幼・小接続カリキュラムを軸とした、幼小の円滑な接続をめざした交流、連携の推進。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を幼小職員で共有し、保育、教育につなげる。	・幼小、幼幼相互のねらいを明らかにしながら、目的をもって交流できるようにしていく。 ・幼小教師の保育観、教育観を擦り合わせながら、一人一人に合った援助、クラスとしての援助を考えて、交流連携を計画実施していく。
保護者・地域・住民との連携	園運営、園行事への保護者や地域住民の参画の促進 ・保護者、地域住民に幼稚園教育への理解と関心を図る。	・読んで感想を伝えてくださる方もある。そのお貴重な意見を頂戴しながら、地域へ発信していきたいことをタイムリーに伝えていけるように計画していく。 ・単に園の様子だけではなく、地域の方に伝えたいこと、分かっていたきたいことなどを話し合っ伝えていく。 ・地域の催し等に、自分たちで計画して参加できることを見つけていく。その中で地域の方とのかかわりを大切にする。

4 学校関係者評価

・自分の思いを相手に伝えようとする姿勢、分かってもらおうとする意欲を育てようとしている部分が素晴らしい。 ・4歳児と5歳児の人数バランスに偏りがあり、工夫が必要になるが、そんな中いろいろ考えながら保育していることが分かる。
・地域の乳幼児が減ってきていることは、地域の者として実感している。その中で、子育てしやすい地域になるよう、地域としても様々に尽力してきている。 ・今後も、幼稚園として何ができるのか考えて、積極的に子育て世帯に働きかけていってほしい。
・異校種間の連携は、今後も密にとりながら、子ども達の成長を願って取り組んでいってほしい。 ・集団の中での成長や優しさなど感じる反面、一人になった時の遠慮がちな姿も見られる。自信をもって活動できるようになってほしいと願っている。
・コロナ禍で子どもたちの様子を直接見に行く機会が減っているが、園だよりを見ることで、子どもたちの様子や、頑張っていることなどが、よく分かる。 ・たよりや行事ごとの様子で、少ない人数の中、意欲的に頑張っている様子が窺える。 ・地域の催しで子どもたちに出会えることを、みんな楽しみにしている。元気をもらえる。

(別紙様式 2)

5 総合的な評価結果

- 一人一人の幼児の育ちや発達を丁寧に見取りながら、幼児が主体的に活動できるよう、支え見守ってきた。幼児同士が、自分たちで遊びや生活を進めていけるよう、伝え合い、考え合う場を大切にしてきた。戸惑いや葛藤も体験し、その中で様々な考え合う機会をもてるようにしてきた。
- 人数は少なく、保育の様々な場面で工夫が必要ではあるが、少ないからこそ出来ることもある。様々な体験を通し、人とかかわる力、主体的に生活を展開していく力、深く考え学ぼうとする意欲などを育てていきたい。
- 保育の質を向上させるために、日々の職員間の話し合いや様々な研修を積み重ねていきたい。

6 総合的な学校関係者評価

- 様々な行事や園だより等を通じて、幼児の成長を実感することができた。ここまでの日々の支援は子ども達を支えるための欠かせないものだったと思う。生活発表会は、子ども達の自然な姿から、普段の様子が想像できて良かった。
- 地域の拠点としての幼稚園が、子育て支援の充実を図っていることは素晴らしい。地域としても、どのようなことができるのか一緒に考えていきたい。
- 近隣の幼稚園や小学校、中学校との連携交流を進めている意義、幼児児童生徒の育ちが見え、嬉しく思う。